

2024.1

No.94



社会福祉法人
清心会
— 埼玉・秩父 —

さやかグループ広報誌
SAYAKA

さやかのつどい



新年のご挨拶



社会福祉法人 清心会
理事長 岡部 浩之

新年あけましておめでとうございます。旧年中は社会福祉法人清心会の様々な事業にご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございました。

昨年は、当会にとって大きな転換期となる一年でした。6月には役員改選に伴う新旧理事長の交代、そして創立40周年記念イヤーとして、記念式典をはじめ、カメラマン大西暢夫氏による利用者肖像写真撮影会、バリアフリー演劇祭など多くの関連事業を開催しました。また、前村山理事長が令和5年春の叙勲において旭日双光章を受章するなど、喜ばしい出来事もありました。

私が理事長を拝命し、約半年が経過しました。これまでとは異なる未知なる景色や新たな出会いが多々あり、毎日が戸惑いと驚きの連続でもあります。それでも周囲に支えられながら、直接支援現場で培った自らの経験を強みとして、秩父地域の障がい福祉を担う中核的社会福祉法人としての自覚をもって進んでまいります。日々試行錯誤の連続ですが、利用者、法人、地域や家族の皆さまが安心して暮らし、機嫌よく過ごせる地域づくりに努めていく所存です。

6月の記念式典の際に、当会のアンバサダーを務めている堀口旬一朗さんが祝辞を述べてくださいました。その中で彼は「僕たちの思いをよく聞いて下さい。勝手に決めつけないでください。うまくしゃべれないかもしれないけれど、きちんと聞いてもらえれば、わかってもらえることがたくさんあると思います。皆さんは僕たちの通訳になってください。僕たちはこれからも秩父の地域の中でたくさんいろんなことを経験したいんです。楽しく生きたいんです。」と自らの思いを吐露されました。この言葉に胸を打たれ、改めて福祉の意味を問い直した方達もたくさんいると伺いました。

現在、障がい福祉を取り巻く環境は大きな変革を迎えており、本年は報酬改定など直接的な支援に大きな影響を及ぼす事案が山積しています。

私たちは時に制度や数字にばかり目が行きがちになってしまっていますが、何のための、誰のための福祉なのかを時に立ち止まって考え、旬一朗さんの言葉にもある彼らと地域との「通訳」としてこれからも皆様のお役に立てるよう法人一同精進してまいります。

本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

バリアフリー演劇

12月23日(土)横瀬町町民会館において、バリアフリー演劇『星の王子さま』が上演されました。今回の演劇鑑賞会は実行委員会形式で行われ、秩父特別支援学校、秩父市社会福祉事業団、横瀬町、秩父地域自立支援協議会の方にも委員として参加していただき、準備を進めてきました。

また、秩父農工科学高等学校演劇部の方にはボランティアとして舞台設営などのお手伝いもしていただきました。今回の上演にむけては、11月から秩父地域の放課後等デイサービスのお子さまを中心にワークショップを行い、上演を楽しみにしてきました。

当日は、横瀬町のこども食堂の方にも大勢足を運んでいただき、500席の会場がほぼ満席に！さらに、劇中には新井豪県会議員と横瀬町の富田町長も特別出演され、会場は大盛り上がりとなりました。通常の演劇とは異なり、演じる側と観る側の垣根を超える、素敵な時間を提供していただけました。

さやかこども支援センター 高梨裕美



10月16日から21日まで「さやか・たかしのアート展」が開催されました。今回のテーマは「往古来今」です。昔から今まで、今から未来へと言う意味のように、さやか40周年を記念した昔からの作品や、新しいアーティストを発掘した作品展となりました。

絵を描くのが好きな人、物を作るのが得意な人、気持ちを安心させるためにアイテムを作る人、それぞれの好きや得意、安心が形となり作品として大勢の方にお披露目する機会となりました。

昔からの作品を大事に、これからの未来につながる作品をたくさん作っていきたいと思います。

発達障がい支援事業所たかしの 小泉端希

さやか・たかしのアート展



清心会の新たなる挑戦

9月末にグループホーム銀河・すい星で生活している6名の利用者が、芦ヶ久保の古民家に一泊してきました。発達障がいを抱えた方達は環境の変化に大きく左右されやすいため、1泊旅行から長く遠ざかってきた経緯もありましたが、コロナ禍を乗り越えつつ、まずは自宅の雰囲気を感じられる古民家を利用しての宿泊にチャレンジしてみようと目標を掲げ、取り組みました。

家庭的な古民家では職員によるフルコース料理や皆さんが大好きなコーヒーもたくさん振舞いました。

五右衛門風呂に岩風呂と旅先でしか味わえないことも経験できました。

今回の旅行を通して、何事もチャレンジ精神を持って取り組むことの大切さを実感しました。また、心配しながらも決行した旅行でしたが、利用者の笑顔を目の当たりにすると本当に良かったと思うと同時に、支援者としても成長させてもらった貴重な機会となりました。

発達障がい支援事業所たかしの 黒沢拓己





さやかのつどい



去る11月19日、さやかのつどいが開催されました。コロナ禍を経て、大々的に開催できるようになったつどいは実に4年振りで、職員はもちろん、利用者の皆さんがこの日を本当に待ちわびていました。

ダンスサークルによる華麗なパフォーマンスやさやかロックハンによる素晴らしいバンド演奏に現場のボルテージは最高潮に達しました。さらに、美味しい食べ物、その他素敵な催し物があり、自然と皆さんの顔は笑顔になっていました。

地域の方々をお迎えする本来型のつどいに初めて参加した3年目の職員は、「こんなに大規模なイベントとは思いませんでした。バザー担当でしたがすごく賑わっていました。」と驚いた様子でした。

おかげさまで、およそ1500人ものご来場者につどいを楽しんでいただきました。関係者の皆様、本当にありがとうございました。

さやか事業所 石川裕一



● 材 料 (2人分)

生鱈	3切れ
万能ねぎ	3本
たらこ	1腹
レタス	2枚
レモン	1切れ

.....

A マヨネーズ	大さじ3
薄口しょうゆ	小さじ1
みりん	小さじ1

.....

B 生パン粉	100g
削り節	小1袋

★たらのおかフライ★ ～たらこソース～

1. 万能ねぎは小口切りにし、たらこ薄皮を除いてほぐし、ともにボールに入れる。Aを加え混ぜる。
2. 鱈は小骨をとり、酒を振ってもみ込み、汁気をふく。一口大に切り、塩、こしょうを振って下味をつける。Bは混ぜ合わせる。
3. 鱈に小麦粉、溶き卵、Bの順に衣を付け、170度に熱した揚げ油に入れる。ときどき上下を返しながらか3分ほど揚げ、油をきる。
4. 器にレタスを敷いて3を盛り、レモンを添え、1をかける。



＝編集後記＝

明けましておめでとうございますと申し上げるのは憚られるほどの大地震や大事故が立て続けに発生してしまった新年でありました。とはいえ、こんな時だからこそ、平穏な毎日に感謝すべきと痛切に感じます。

今号は4年ぶりに地域の方をお迎えし、本来の姿に立ち戻ったさやかのつどいを特集させていただきました。

いたるところで笑顔が見られ、利用者をはじめとする皆さんが、この日をいかに待ちわびていたことがよくわかります。「清心会はお祭りと共にある」がここでも証明されました。

冒頭に申し上げたことに加え、物価高などの厳しい世相のなかでも、このような明るい話題を今後も提供していければと思う次第です。

さやかサポートセンター 原 真澄

法人ホームページがリニューアルしました！

是非ご覧ください！！



社会福祉法人 清心会 さやかグループ <http://www.sayaka.or.jp>

